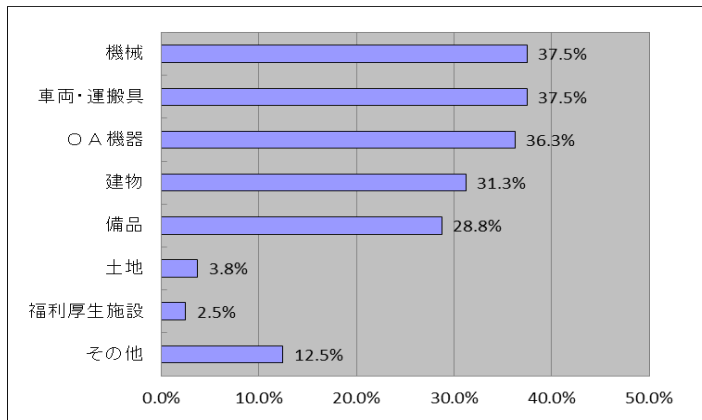
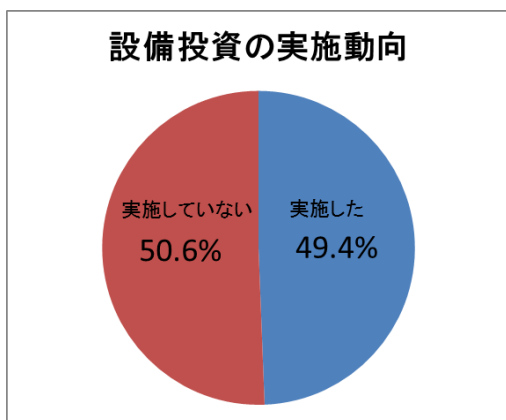


■設備投資動向調査結果（平成24年下期分）

企業の設備投資意欲が活発化！リーマン・ショック以前の水準を上回る

- 昨下期（平成24年7～12月）について、設備投資を実施した企業は全業種では49.4%と約5割みられた。業種別にみると、製造業が最も高く61.4%、以下、サービス業が50.0%、建設業が40.0%、小売・卸売業が40.0%と続いた。
- 昨下期（平成24年7～12月）において設備投資を実施した企業にその投資内容（複数回答）を聞いたところ、全業種では「機械」と「車両・運搬具」が37.5%と最も多く、以下「OA機器」36.3%、「建物」31.3%、「備品」28.8%と続いた。
- 一方、今年上期（平成25年1～6月）について、設備投資を計画している企業は全業種で51.0%と昨下期を幾分上回る割合で計画していることが分かった。業種別にみると、サービス業が最も高く72.4%、以下、小売・卸売業が53.8%、製造業が51.8%、建設業が27.3%と続いた。特にサービス業が22.4ポイント上昇しており、全体を押し上げる要因となった。
- 今年上期（平成25年1～6月）において設備投資を計画している企業にその投資内容（複数回答）を聞いたところ、全業種では「機械」が36.3%と最も多く、以下「OA機器」35.0%、「車両・運搬具」32.5%、「備品」21.3%、「建物」17.5%と続いた。
- 設備投資の実施・計画動向について、単純比較では前回調査（平成20年6月実施）結果を10ポイント程度上回り、リーマン・ショック以前の水準をも上回ることから、長引く景気減速下で抑制していた設備の維持・更新投資に向かう動きが活発化してきたことがうかがえる結果となった。

（1）昨下期（平成24年7～12月）設備投資の実施動向



（2）今年下期（平成25年1～6月）設備投資の計画動向

